

経営者の基礎講座第4講 法律問題



2019年11月22日(金)
茨城県総合福祉会館にて

経営者の基礎講座第4講は昨年も大変好評を得た法律問題。みとみらい法律事務所弁護士の後藤直樹先生を講師に迎え、茨城県総合福祉会館で開催しました。今回の講座では、ワークを中心にチェックシートを使いながら会社の基本的ルールや取引先との契約、債権管理、消費者との関係、知的財産や事業承継など、自社で将来起こり得るかもしれないトラブルやコンプライアンス上の問題を事例と共に後藤先生から分かりやすく解説いただきました。質疑応答を交えて、実際に自社で起こり得るかもしれないトラブルについて、危機管理意識を強く持つこと、また未然に防止することの重要性を改めて考えさせられました。

No.282号 2019年12月31日

DOYU IBARAKI



発行:茨城県中小企業家同友会
〒310-0851 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館3階
Tel:029-243-8230
Fax:029-243-7225
Mail:info@ibaraki.doyu.jp

第8回 いばらき中小企業経営フォーラム



今年で8回目となる【いばらき中小企業経営フォーラム】が、11月12日(火)に日立市のホテルテラスザスクエア日立とシビックセンターにて開催されました。

日立市で初めての開催となった今年は、『遊戯三味(ゆげさんまい)~「楽しい」ことをするのではなく、すること自体を「楽しむ」。~』をメインテーマに3つの分科会「経営指針」「社員教育と事業継承」「人と組織と技術革新」で学びを深めました。

また、「地域に根ざす中小企業の在り方~生まれ育った場所には100倍返し~」をテーマにアース建設(株)取締役会長の渡部明雄氏(福島同友会会員)が日立シビックセンター天球劇場にて基調講演を行いました。先頭に立ち、ビジョンを示し、地域を大切にするという渡部さんの経営者としての熱い想いと覚悟が伝わり、「中小企業が地域のインフラになる」という力強いご講演に多くの気付きをいただきました。懇親会では、久慈浜ソーラン舞踊衆羅森万の方々によるよさこいの演武や、会員企業による物販ブース、当日の様子をまとめたDVDの上映などで大変盛り上がり、最後には日立支部から南西支部へと盾が引き継がれました。



フォーラム実行委員長より(※当日のまとめ抜粋)

会社経営って好きですか?好き嫌いでやるものではありませんが。私は、会社経営は辛くて、厳しくて、まるで修行の様なものだと思っています。その要因は、経営者は常に多くの責任と義務が課せられ、次々と経営課題を明確にしつつ、解決しなければなりません。会社経営に向いてない一、楽しくない一、嘆くこともしばしばです。そんな事を悶々と思いつつ日々を過ごしておりました所、ある日、日頃親しくさせていただいている同じ日立支部所属の会員さんからの言葉に耳を疑いました。『今、会社経営が楽しくて仕方ないんだよねー』 その会員さんから聞いた言葉は私とは対極にあるものでショックを受けました。因みにこの会員さん今日の分科会でも報告されていて、とてもスペックが高い方で尊敬している会員さんです。折しも、このフォーラムのテーマで悩んでいた私は、自社の経営課題と言うより、自身の経営姿勢そのものを、会社経営が楽しくて仕方なくなる、マインドセットが出来る様な言葉をフォーラムのテーマにしたいと考え始めました。私には女優を目指して頑張っている24歳の娘がいます。その娘から今度舞台をやるからということで、観に行ってきました。そこそこ面白かったのですが、そう言えば何と言うタイトルだったかなと、パンフレットを開いてみると、そこに遊戯三味とありました。聞いたこともない言葉でしたが、字面と響きで「これだ」と。

あらためて意味を調べてみると、遊ぶと言う意味ではなく、人生を達観した立場から、生きることを楽しむ意味を表し、また、辛いこと楽しいことも含めて楽しんでいくとあります。まさにテーマにふさわしい言葉だと確信しました。このようにして決まったフォーラムのテーマ、そのテーマに沿って分科会や基調講演の実践報告を通して、遊戯三味が感じられる学びや気づきのエッセンス得られましたでしょうか。私が思う遊戯三味の境地とは、私達中小企業家同友会が追い求める“何のために経営をするのか”と不離一体のテーマです。楽しいことをするのではなく、すること自体を楽しむ。シンプルですが、辛い局面に遭遇した時、経営に行き詰まった時、遊戯三味の4文字を思い出してみてください。きっと心に楽しむ力が湧いてくるはずです。最後になりましたが、県内は素より、宮城県、福島県、栃木県から多数の会員様、オブザーバーの方にご出席いただきました。また、いばらき中小企業経営フォーラム2019 IN HITACHIが開催でき、こうして私がここに立っていただけるのも、多くの同友会の仲間達に支えていただき、手を貸していただいた賜物です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。



《経営者向け講演》

2020年新春賀詞交歓会

2020年1月20日(月)

ホテルテラスザガーデン水戸にて

第1部:記念講演 18:00~19:50

第2部:賀詞交歓会 20:00~21:30

参加費:会員6,000円 ゲスト7,000円

定員:200名

※定員になり次第受付終了とさせていただきます。

お申し込みはe.doyuまたはFAXで!



11月度 新入会員のご紹介

南西支部

よろしくお願いたします!

大森 健一さん

(有)ファミリーライフ
クラモチ

代表取締役

会員は辞書の
1ページ!

12月理事会
承認時点
会員数

318名





第1分科会 経営指針

『ブレない指針が経営のプロテイン ～強靱な組織づくり～』

報告者：岩佐 英明さん (株)シリアスフィットネス 代表取締役
座長：古徳 大輔さん (株)ケーアイ 代表取締役



岩佐さんは大学を卒業後、フィットネス関連会社へ就職。トップダウン型の教育を受け、仕事を着実にこなすも、上司の退職をきっかけに、リーダー育成や組織づくりの重要性に気づき、マネジメント、リーダーシップについて学び始めました。フィットネスクラブの運営ノウハウを学びながら、着実に成長するも、バブル崩壊の影響を受け4,500名の会員を抱える店舗が突然閉店する事態に。閉店作業を進める中、スタッフや会員様の涙を見てフィットネスクラブの存在意義を再認識し、このビジネスを続け、人の役に立つことを決心します。その後、世界展開するフィットネスジム「ゴールドジム」の直営店13店舗の新規出店に携りますが、担当する福島郡山店が業績不振により閉店の危機に。過去の苦い閉店の経験と、自身の使命感から、この店舗を引き受け2011年に独立起業します。月間450万円という赤字、さらには震災・原発の影響で人口も減っていく中、独立起業した覚悟は相当なものであったと思います。岩佐さんは経営指針書をつくり、それを福島同友会で磨き上げ、社内での経営指針発表会を実施。さらに同友会式グループディスカッションを取り入れることで、業績は見事回復。震災直後、198名だったクラブ会員は現在1200名まで増えました。今回の岩佐さんの発表を聞いて感じたことは、理念・ビジョンを明確にし、やるべきことをコツコツと実践することで企業は成長する。指針を落とし込み、人に任せることで人が成長し、組織は強くなる。ということでした。

岩佐さんは「経営とトレーニングは同じである」と言います。健康をつくるためにはやるべきことがあり、計画を立て、決めたことを実践する。近道をしようとせず、こつこつと継続し、直すべき部分は直していく。その繰り返しです。と。また、チームスポーツと同じく、方針とミッションを明確にすれば監督(社長)が指示をしなくても、選手(従業員)は自分で判断し状況に応じたプレーを選択する。そのために指針は必要なものであるとおっしゃっていました。

座長のまとめとして次の3つを要点に取り上げました。

- 1つ目は、指針とは経営の根幹であるということ。
- 2つ目は、経営指針の実践が、主体的な従業員の成長と組織作りにつながるということ。
- 3つ目は、社員を育てる環境と指針を作ることは経営者の役割であるということ。

「健康」という人間の普遍的なテーマを、自社の役割、社会的責任として位置づけることで、地域に愛され、必要とされる会社になったシリアスフィットネス。我々のこれからの経営に素晴らしい学びと気づきを与えるご報告となりました。

第2分科会 社員教育

『あなたに逢えて本当に良かった～人は人で育たない～』

報告者：宇田川 真由美さん (株)あおば 代表取締役
座長：飯田 智子さん (株)すぎのや 専務取締役



宇田川さんは、母親の「介護の仕事をやりたい」という言葉とご主人の後押しを受けて、自宅の7.5畳から親子3人での訪問介護事業をスタートさせました。そして、ある高齢者の方との出逢いで、今のあおばの理念「あなたに出逢えて本当に良かった」が誕生します。

宇田川さんはあおばの商品は人(ひと)だと話します。始まりは「会社」という名の「自宅」、そしてスタッフは家族3人とママ友でした。当然社員教育の制度などはなく、「分からないことは電話して」という1対1の教育でした。仲間が欲しいと始めた育成事業が成功し、仕事が増える中で環境を整えることが必要となり、事業所を移転し障害者支援も開始しました。スタッフも増え、会社の経営も順調、そんなときにターニングポイントが訪れました。ご主人との突然の別れ、その死を受け入れられず、茫然と過ごす日々の中、家族と一緒に働く仲間の後押しを受けて、北欧への視察チームに茨城代表として参加しました。あおば福祉タクシー事業を開始し、会社も有限会社から株式会社へ変更、新しい事業も次々にスタートさせました。人が増えただけトラブルもあり、会社も組織化に向かう中、同友会と出逢います。同友会を通して、沢山の経営者から学び、それを自社に落とし込みました。社員教育委員会に所属し活動する中で、教育とは「教える」ではなく、社員が自ら育つ土壌を作ることができると気づきました。この頃から人事考課制度なども導入し社内研修も充実させました。地域活動にも積極的に参加し、企画・運営まで社員を巻き込むことで団結や絆が生まれました。平成27年の関東・東北豪雨水害の際には、会社・スタッフ・ご利用者・地域がつながり、自ら考えて行動することが出来、それが自身にも繋がったといいます。

そんなとき、後継者候補の退職という新たな転機を迎え、更に宇田川さん自身が大けがを負いました。自社の未来を誰に託すのか悩む中で、救世主である弟さんが現れ、実務研修と並行して、同友会の幹部社員研修を受講しました。育ってきたスタッフと共にもう一度理念に立ち返るという育成の方法を取りました。

働き方改革と自律型社員の育成、会社と個人の対等な共生関係で、人が輝く仕組みを作りたい。同友会の幹部社員研修にも二期目の受講生を送り込み、会社内部では得られない育成がそこにはありました。同友会の仲間と共に自社のスタッフを育てていく環境があつて良かったと話してくれました。

今回、社員教育をテーマに報告いただいた中で、宇田川さんから「その時そのときの組織の大きさで人の育ち方は違う。人材育成で大切なものは、人は皆違うから、1人ひとりの個性を尊重し、目的と根拠、動機づけをすること、存在価値、存在意義を意識すること、そして援助的人間関係を構築すること」を学ばせていただきました。

「人は何で育つのか？」社員と共に学び(共学)、育ち(共育)、そして生きていく(共生)。今回のフォーラムのテーマである「遊戯三昧」にもあるように、楽しいことをするのはなく、理念と共に経営も社員教育も全てを楽しむことが大切だと、情熱溢れる宇田川節を感じる分科会報告となりました。

第3分科会 経営革新

『経営者としてどこを目指すのか～はじまりは「経営はかがく」～』

報告者：丹野 和良さん 日立ユニオンデンタル(株) 代表取締役
座長：赤津 猛さん (株)あかつき 代表取締役



赤の女王仮説、私は丹野さんの報告を聞いて初めて知ることになりました。今回座長を引き受けさせていただいて、この中で一番の学びをさせていただいたのは私だと思えます。赤の女王仮説では、変化し続けなければ勝つことは出来ない。社長自身が変化していかなければ、社員みんなが幸せになれないという事を痛切に感じました。人とのあい、経営はかがくから変化が始まり、今の丹野社長があります。また、島社長との出会い、「丹野さんヒマやろ？」暇な人なんてどこにもいません。でもその言葉に答えて3日後にはアメリカまで行ってしまふ。やはりその学ぶ姿勢、まずはトライする事が本当に大事なんじゃないかなど感じました。〈自分に都合のいいことは取り入れて、できないことは排除していく。〉それでは学びにならないと思います。全てを受け入れて全力でやってみたら何か得る物があるはず。丹野社長の学び方の姿勢、変化を楽しむ姿勢が素晴らしいと思います。

私と同じように島社長に出会っていたら、例え横にいたとしても、島社長からこの教を引かせたのかなど、考えさせられました。

また、この報告をもとに、グループ討論のテーマを「変化し続けるための基盤について」としました。いかがでしたか？今回の分科会を担当させていただくにあたり、大切にしてきたことがあります。分科会を支えていただく方、関わっていただいた方に、丹野さんのすばらしさをリハーサルなどからも感じていただき、自社へ持って帰っていただければと考えていました。本日の報告は1時間余りでしたので、すばらしい報告ではありましたが、もっと話したい事・伝えたい事が沢山あったと思います。でもリハーサルに関わった皆様にはいい学びの機会になったのではないかと思います。また本日参加頂いた皆さんにも、ここに来たことが良い機会・チャンスだと考えていただいて、皆さんで丹野社長の10年後を信じて、皆さんと一緒に丹野社長と共に変化し続け挑戦・チャレンジしていきたいと思えます。

11月例会報告

県央海浜支部

11月8日(金) ワークプラザ勝田にて
『散策？迷子？徘徊？社長！今、どこ歩いているの？
経営社の自社分析 課題の確認で現状打破！！』



県央海浜支部11月例会は、「散策？迷子？徘徊？社長！今、どこ歩いているの？経営者の自己分析、課題の確認で現状打破！！」と題して、企業変革支援プログラムSTEP1を使って、経営成熟度診断を実施しました。自分ひとりで実施するのではなく、同友会の仲間と一緒に挑戦することで、自社の現状の立ち位置を確認し、今後の課題がどこにあるのかを改めて考え、見つめ直す機会となりました。

(レポート:事務局)

第20期経営指針を創る会第7講

2019年11月22日(金)ヒロサワシティにて



経営指針を創る会後半戦の第7講がザヒロサワシティ会館(茨城県民文化センター)で開催されました。第7講では、理念・10年ビジョン(前半の内容)のブラッシュアップ、SWOT分析のブラッシュアップ、そして経営方針の検討と策定を行いました。

これまで作成してきた理念やビジョン、SWOT分析をブラッシュアップする作業を行いながら、新しく経営方針を策定する作業に入らなければならないこともあり、受講生は苦勞しながら宿題に取り組んでいました。グループに分かれての意見交換では、委員会やOBメンバーにアドバイスを受けながら、一歩ずつ前進し、今回は具体的な数字を落とし込みながら、経営計画の策定に入ります。